

共同体感覚が LINE での雑談行動に与える影響

慶應義塾大学 経済学部 三年
裴漢峻¹ 王子婕² 浅見遥香³

要約

本稿では、大学生の日常における雑談行動に着目し、「共同体感覚が高い人ほど日常で無料通話・メールアプリケーションである LINE（ライン）でより様々な話題について雑談する」という研究仮説を立てた。そこで、共同体感覚という世界観と LINE で様々な話題について雑談するという経済行動に関するアンケート調査を行った。また、世界観と経済行動との関係性が文化や地域によって異なる可能性があるため、日本、中国、韓国の3国の大学生を対象に同様のアンケート調査を行った。3国において使われるアプリケーションがそれぞれ異なるため、中国では WeChat（ウィーチャット）を、そして韓国では KakaoTalk（カカオトーク）を LINE の代替としてアンケート調査を行った。回帰分析において、被説明変数 Y（経済行動）に雑談行動を測る質問からの回答データを、説明変数の X（世界観）には、共同体感覚を測る質問からの回答データをそれぞれ取り入れた。アンケートの回答分析をした結果、研究仮説に整合的で有意な結果が得られた。また、日本は中国と切片と係数に有意な差がなかったが、韓国は中国と有意に異なる結果がえられた。

キーワード: 共同体感覚、雑談行動

1. 序文

1.1. 問題提起

近年において、大学生はゼミやサークルなど、ある共同体に所属され、集団で行う活動が多い。共同体感覚の高い人は共同体の中で集団の一員であるという所属感を感じ、お互いの存在を充分意識した上で、思いやりを持って行動する。私達はこのような大学生の共同体感覚が日常生活における LINE での雑談行動に影響を与えているのではないかと考察した。

1.2. 先行研究

本稿の世界観である「共同体感覚」は、心理学者や社会論理家であるアルフレッド・アドラーに提唱され、彼の個人心理学では、「他の人の目を見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で

¹ hjemirate94@keio.jp

² ohshisho9673@keio.jp

³

感じる」という言葉で述べられている(Adler, 1927)。また、Crandall(1981)は共同体感覚を「他者に対する興味と関心」と定義している。研究者によって、共同体感覚の捉え方は様々だが、高坂(2011)は野田(1998)の共同体感覚を構成する4側面(所属感、信頼感、貢献感、自己受容)をもとに、青年期の共同体感覚を測定する尺度を作成している。彼は4側面についてそれぞれ6項目ずつを作成し、中学生及び大学生に回答を求め、その回答をもとに因子分析を行ったところ、「現在所属している集団やその成員を信頼することができる感覚」を表す「所属感・信頼感」、「現在の自分自身を肯定的に受け入れることができる感覚」を表す「自己受容」、「人に対して主体的に貢献することができる感覚」を表す「貢献感」の3因子が抽出されている。

また、橋本(2015)の「貢献感と援助要請の関連に及ぼす互惠性規範の増幅効果」によれば、貢献感が低ければ人は遠慮し、貢献感が高ければ人は遠慮などしないという。そこで、相手は忙しいかもしれないと遠慮して雑談のLINEを送らないのではないかという日常生活における身近な疑問を持ち、本稿では、「所属感・信頼感」、「自己受容」、「貢献感」この3つの因子で構成されている共同体感覚を世界観とし、日中韓3国における無料通話アプリケーションのLINE, WeChat及びKakaoTalkでの雑談行動が共同体感覚に影響されるのか、そしてどのように影響されるのかについて仮説を立て、検証を行った。

1. 3. 研究仮説

「共同体感覚が高い人ほど、LINEでより様々な話題について雑談する」という研究仮説を立てた。共同体感覚が高い人ほど、相手のことを深く配慮することで優しい話し手や聞き手となり、また遠慮せずにより多様な話題について雑談するという研究仮説を立て、研究を行った。

2. 研究方法

Google Formと問巻星(中国のアンケートフォーム作成サイト)でそれぞれ日本語と韓国語、そして中国語でアンケートを作成し、LINEとWeChat、KakaoTalk上で拡散した。集計期間は8月14日から8月21日の一週間であり、計183名(日本:41名、中国:52名、韓国:90名)の有効回答を得た。共同体感覚の度合いを測る質問を6段階評価の方法で集計し、「当てはまらない」を0、当てはまるを5に数値化した。質問1~2、7~12は「信頼感・所属感」、質問3~4は「自己受容」、質問5~6は「貢献感」を測った。また、雑談行動に関しては、雑談に費やした時間は正確に計算しにくいため、雑談を細かく分類し、それぞれのシチュエーションについて雑談していたかどうかを、ある・なしの2択でアンケートを作成し、あるを1、なしを0に数値化した。アンケート結果をエクセルで集計し、回帰分析を行った。回帰分析においては被説明変数に雑談行動を測る質問を、説明変数には、共同体感覚を測る質問をそれぞれ取り入れ、国別での単回帰分析とダミー変数を用いた重回帰分析を行った。

3.研究結果と考察

回帰分析において、被説明変数 Y(経済行動)に雑談行動を測る質問を、説明変数の X(世界観)には、共同体感覚を測る質問を取り入れた。三国別の差を知るため、ここでダミー変数を導入する。国籍については、「日本」、「中国」、「韓国」という三つのカテゴリーがあるため、ダミー変数を二つにし、下のように値を設定する(表1)。

国	ダミー-1 (Dj)	ダミー-2 (Dk)
中国	0	0
日本	1	0
韓国	0	1

「表1 三国のダミー変数」

重回帰分析した結果は下の通りである。(表2)

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	2.2547537	1.532076	1.471699	0.14287805
Dj	0.8591024	2.192306	0.391872	0.69562446
Dk	4.6513377	2.067717	2.249504	0.0257126
X	0.142875	0.035949	3.974393	0.00010262
XDj	-0.0553876	0.056053	-0.98812	0.32444099
XDk	-0.0846691	0.049184	-1.72148	0.08691132

「表2 三国のダミー変数重回帰分析結果」

そして、それぞれの国の回帰式が

$$Y_c = \text{切片} + X \text{ 値 } 3 \times \text{説明変数}$$

$$Y_j = (\text{切片} + X \text{ 値 } 1) + (X \text{ 値 } 3 + X \text{ 値 } 4) \times \text{説明変数}$$

$$Y_k = (\text{切片} + X \text{ 値 } 2) + (X \text{ 値 } 3 + X \text{ 値 } 5) \times \text{説明変数}$$

となる。

Dj と XDj の P 値が高いため、日本と中国には切片も傾きも、有意な差は見られない。つまり、日本と中国はととても似た結果である。しかし、韓国は切片も傾きも両方とも0に近く、違う結果になった。

4.結論

今回、共同体感覚が高い人ほど、無料通話アプリ上での雑談がより多種類にわたるという結果が

導き出された。また、中国と日本の間に有意な差が見られなかったが、韓国と中国は有意な差が見られ、かなり違う結果となった。

5. 引用文献

(アルファベット順)

Adler, A. (1927). *Psychotherapie und erziehung*. Bd. 1. Frankfurt, Germany: Fischer Taschenbush-Verlag.

Crandall, J. E. (1981). *Theory and measurement of social interest: Empirical tests of Alfred Adler's concept*. New York: Columbia University Press.

橋本剛 (2015) 「貢献感と援助要請の関連に及ぼす互惠性規範の増幅効果」、社会心理学研究

野田俊作 (1998) 『アドラー心理学トーキングセミナー』アニマ出版社

高坂康雅 (2011) 「共同体感覚尺度の作成」、教育心理学研究, 59, 88-99 第 31 巻第 1 号

付録

アンケート質問

1. 自分から進んで人の輪に入れていると思う。

当てはまる

やや当てはまる

どちらかという当てはまる

どちらかという当てはまらない

あまり当てはまらない

当てはまらない

2. 頼りにできる人がいると思う。

当てはまる

やや当てはまる

- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

3. 今の自分に満足している。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

4. 欠点も含めて自分のことが好きだ。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

5. 進んで人の役に立つことができている。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

6. 困っている人に対して積極的に手助けができていると思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

7. 私は家族にとって必要な存在だと思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

8. 私は大学の友達にとって必要な存在だと思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

9. 私は母国にとって必要な存在だと思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

10. 私は家族の一員であることを実感していると思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

11. 私は大学の一員であることを実感していると思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる

- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

12. 私は母国の一員であることを実感していると思う。

- 当てはまる
- やや当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらかという当てはまらない
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない

この三日間、友達(恋人を除く)と LINE でトークや無料通話をする際、次の内容について雑談をしたかどうかお答えください。

13. 身近にあったことを話す。(例:昨日見たテレビ番組について等)

- ある
- ない

14. 今していることを話す。(例:今食べている食べ物の写真を送る等)

- ある
- ない

15. 自分の家族のことを話す。

- ある
- ない

16. 第三者の話をする。(例:共通の友人の話等)

- ある
- ない

17. 天気の話をする。

- ある
- ない

18. 恋の悩みについて話す。

ある

ない

19. 将来や進路について話す。

ある

ない

20. 最近話題のニュースについて話す。(例:芸能やスポーツ、政治など)

ある

ない

21. 自分の自撮り写真を相手に送る。(例:髪色についての感想等)

ある

ない

22. 買い物の相談をする。

ある

ない

23. 趣味の話をする。

ある

ない

24. スタンプを送り合う。

ある

ない